

国際ソーシャルワーク研究セミナー

カナダにおける先住民ソーシャルワークの歴史的発展と進化する実践モデル

社会政策と先住民固有の知に基づく精神保健福祉
アプローチに焦点を当てて

2023年6月10日（土）
13:00 >> 15:30
（日本標準時間）

※ 他の時間帯は下記より確認
<https://www.thetimezoneconverter.com/>

開催場所：日本女子大学目白キャンパス
（120年館12009教室）
& ZOOM ウェビナー（オンライン）
定員：500名

参加費：無料

言語：日本語・英語の同時通訳付

申込方法：

以下のURLもしくはQR
コードよりフォームにて
お申し込みください。



申込期日：2023年6月8日（木）

<https://forms.gle/JGMNDK4RohJZkzSL9>

日本のアイヌやカナダのファースト・ネーションを含む世界中の先住民は、歴史的な植民地主義及び同化主義の支配と近年のグローバル化により、今日まで様々な社会問題や精神保健福祉的な課題に直面しています。セミナーでは、『ソーシャルワーク専門職のグローバル定義』における「地域・民族固有の知（とりわけ先住民の知）」の概念を基に、植民地主義と同化主義に起因する社会的・精神保健福祉的な課題を経験してきた先住民の人々との実践アプローチについて考えます。

カナダの先住民ソーシャルワーク実践において合わせて100年以上の経験をもつ3人の報告者が、精神保健福祉課題を悪化させた行政政策の歴史と、これらの課題に対応した文化的に適切な精神保健福祉実践の発展について語ります。在住地の遠隔先住民コミュニティがあり、3万人の先住民の人々が住んでいます。先住民当事者の2人の報告者は、先住民女性としての自身の人生経験や向き合ってきた困難が、当地域における精神保健福祉ワーカーとしての長いキャリア形成に与えた影響について述べます。
なお、本セミナーは、一般社団法人 国際ソーシャルワーク協会の設立を記念する特別イベントとして位置づけられています。

お問い合わせ先：

ヴィラーグ ヴィクトル (virag@jcs.w.ac.jp)

プログラム

13:00 先住民伝統の開会儀式（5分）

13:05 開会挨拶と団体紹介（10分）

木村 真理子

（国際ソーシャルワーク協会会長・日本女子大学名誉教授）

13:15 概要説明（10分）

ヴィラーク ヴィクトル

（科研費事業代表・日本社会事業大学准教授）

13:25 カナダの現場報告（60分）

「先住民に係る社会政策と進化する知と経験に基づいた精神保健福祉実践」

ジョイス ティンプソン、リディア シャーマン、サリー バンティング

14:25 休憩（10分）

14:35 指定コメント・質疑（10分）

松尾 加奈

（日本ソーシャルワーク学会国際委員・淑徳大学准教授）

14:45 ディスカッションと質疑応答（30分）

モデレーター：ヴィラーク ヴィクトル

15:15 総括と閉会挨拶（10分）

小原 眞知子

（国際ソーシャルワーク協会副会長・日本社会事業大学教授）

15:25 先住民伝統の閉会儀式（5分）



ジョイス ティンプソン

- ・カナダのトロント出身で、現在は30か所の先住民コミュニティの遠隔サービス拠点であるオンタリオ州のスー・ルックアウトに在住し、40年間にわたり、あらゆる側面から先住民の精神保健福祉サービスに従事してきた。
- ・サリー・バンティング氏とリディア・シャーマン氏を含み、カナダで初めて先住民の当事者ワーカーによる精神保健福祉サービスの開発に取り組んできた。
- ・ソーシャルワーク博士号の取得後、25年間にわたり、開発途上の北方先住民コミュニティにおいて、当事者企画・運営の精神保健福祉及び依存症関連事業のコンサルタントを務めてきた。
- ・スー・ルックアウトの自治体議員に当選し、17年間にわたり、政治家として環境問題と、自治体と先住民の関係を中心に活動してきた。
- ・北方の気候を好み、冬のクロスカントリースキーや夏のスイミングを楽しんでいる。



リディア シャーマン

- ・オジ・クリー語で「丸い湖」を意味するウィーガモウ湖先住地生まれ育ちで、母語に流暢なオジ・クリー先住民女性で、40年間にわたり、さらに北方より飛行機で来所する遠隔の32のファースト・ナーション先住民コミュニティのサービス拠点であるスー・ルックアウトに在住している。
- ・35年間にわたり、精神保健福祉と児童福祉を含む先住民ソーシャルワーク分野で実践してきた。
- ・1980年初頭に、ジョイス・ティンプソン氏とサリー・バンティング氏、2名の先住民長老や他の先住民当事者の精神保健福祉カウンセラーと協働し、カナダ初の先住民による精神保健福祉事業の立ち上げに取り組んできた。
- ・昨今の6年間にわたり、先住民団体の精神保健福祉チームにおける精神保健福祉カウンセラーとして従事してきた。
- ・趣味は読書、ギター、歌、孫との遊びを含み、多文化に関心があり、自然愛好家でもある。



サリー バンティング

- ・ノース・スピリット（「北の神」）湖先住地生まれ育ちで、母語に流暢なオジ・クリー先住民女性で、スー・ルックアウト近くのドライデン市に在住している。
- ・1983年にジョイス・ティンプソン氏とリディア・シャーマン氏とカナダ初の先住民精神保健福祉事業において始まった約20年間の専門的なキャリアをもちながら、対人援助実践を2回ほど休止した際に、自民族において女性として初めて族長を務めてきた。
- ・現在、ドライデン高校の長老カウンセラーとして、ドライデン市や他のコミュニティより在学中の先住民生徒の支援に取り組んでいる。
- ・母語を流ちょうに話せる者として、より年配の長老たちとコミュニケーションをとり、伝統的な技法を学びながら、最近では、冬に向けたブルーベリーの保存などの自然帰還運動を探究中である。長年の精神保健福祉実践にかかわらず、自身の最も重要な役割を、13人の孫と故夫ディーン氏の9人の孫の祖母を務めることであると確信している。